



大きな大きな
つみんが
エンジニア
の家を
ワ

孤立を生むサイクルを断ち切り、 “相互理解の起点”になる遊び場。

当事者である親たちが立ち上げたブルーノは、子どもたちの「やりたい」気持ちや家族の想いに寄り添ってきました。地域から孤立し「人の目が怖い」と感じている家族にとって「やりたい」気持ちをかなえる場所は限られます。

新拠点のテーマは「エンガワの延長による、繋がり再構築」です。「ウッドデッキ」が内と外の境界をぼかし、さらに「はらっぱ」や「森」、「はなれ」が中間領域となりゆるやかに地域とブルーノを融合させていきます。

その結果、子どもたちと家族がそれぞれの距離感で地域と繋がれるように。医療的ケアが必要な子どもたちの「やりたい」を地域でかなえていくことが「どんな人でもやりたいことに向き合える」未来に繋がり、社会をより豊かにしていきます。ブルーノはその最初の一步を踏み出す場所です。

僕たちの使う
ここを使う

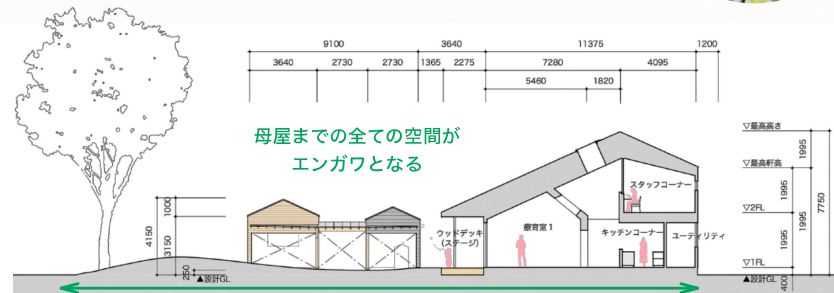
- ご飯を食べたり息をするために機械や大人の手伝いが必要なんだ。
- いつも寝たきりだから特注のバギーに乗ってるよ。
- バギーは丈夫に作っているから荷物と合わせると約30キロ!

- 気軽なお出かけは難しいかな。
- 時々発作が起きて、息ができなくなることもあるよ。
- でも楽しいことが大好き。いっぱい遊びたいな!

外出時の持ち物

衛生用品／着替え／呼吸器
酸素濃度を測る機械
液体の食事／酸素ボンベ
痰を取り除く機械…

約15kg



視点1 不安を安心に変え 子どもたちの 「やりたい」を育む空間

視点2 ママの 想いを 実現する場所



療育室

大きなバギーでもゆとりのあるスペース。寝たきりでも感じる天井からの自然光。複数の医療機器使用を想定した電源確保。急変時の救急隊の導線も想定。入れ子状の療育室は自宅のような安心感をもたらし、子どもたちが「やりたい」に夢中になれる空間。



はらっぱ(ステージ・はなれ)

夏はプール、冬は日向ぼっこ。時には家族を招待してお遊戯の発表。子どもが思い切り楽しむ姿を見て家族は安心し、家族が自分の「やりたい」を取り戻すきっかけに。



あそびの森

山林を残すことで在来植物を育て、虫や鳥たちが自然と行き交うインクルーシブな遊びの森へ。ハンモックにゆられ、木の遊具で地域の子ともたちと遊ぶ。季節の変化で遊び方が無限に広がる場所。

■ 建築主コメント (一般社団法人Burano)

Burano Oyamaのプロジェクトは、建築に関して一切妥協することなく医療的ケアや重度の障害がある子どもたちや家族にとって一番良いあり方を模索続け、練りに練ったプロジェクトです。先進的な施設を視察し学んだ知恵を最大限に発揮したことで、日本財団主催のみらいの福祉施設建築プロジェクトにも採択され、多くの方々に知っていただくことになりました。この施設のある方が、地域と子どもたちを繋げるロールモデルとなり、社会に広がっていくことを願っています。

■ 設計者コメント (NIDO一級建築士事務所)

医療的ケアが必要な子供達にたくさん経験させてあげたいという思いからスタートしたプロジェクト。屋敷林という敷地の特性を最大限に活かし、子どもたちの「やりたい」を地域の方でかなえていくことで「どんな人でもやりたいことに向き合える」地域の未来がより豊かになるように様々な中間領域によって緩やかに地域と建築を融合させていきます。大きなエンガワでみんなをつなぐ家の提案です。

■ 施工者コメント (株式会社 石島建設)

本施設にはいくつかの特異な施工が含まれていました。内外壁に用いられた杉板は、元の二次林の樹木の一部を伐採し製材加工したものを使用していますが、材木を挽いた時点で初めて木肌や色見が分かるため、加工形状や寸法はその時点で決定されたもので、出入隅や異種部材の取合いとの納め方など現場での高い対応力が求められました。また建屋内の吹抜けや勾配天井にも精度管理や安全管理の面で気を使いながら施工を進めました。

ラボ・リビング・デッキ

気が抜けないママたちがここではゆったり。お茶を飲みながら相談したり、薪ストーブの火を見つめたり、ついたた寝したり。安らげる時間を日常に。就労を諦めていたママたちに在宅ワークの場を提供してきたプラン。次のステップは職業選択の幅を広げる取組み。地域と繋がりが新たな仕事を生み出す実験の場へ。

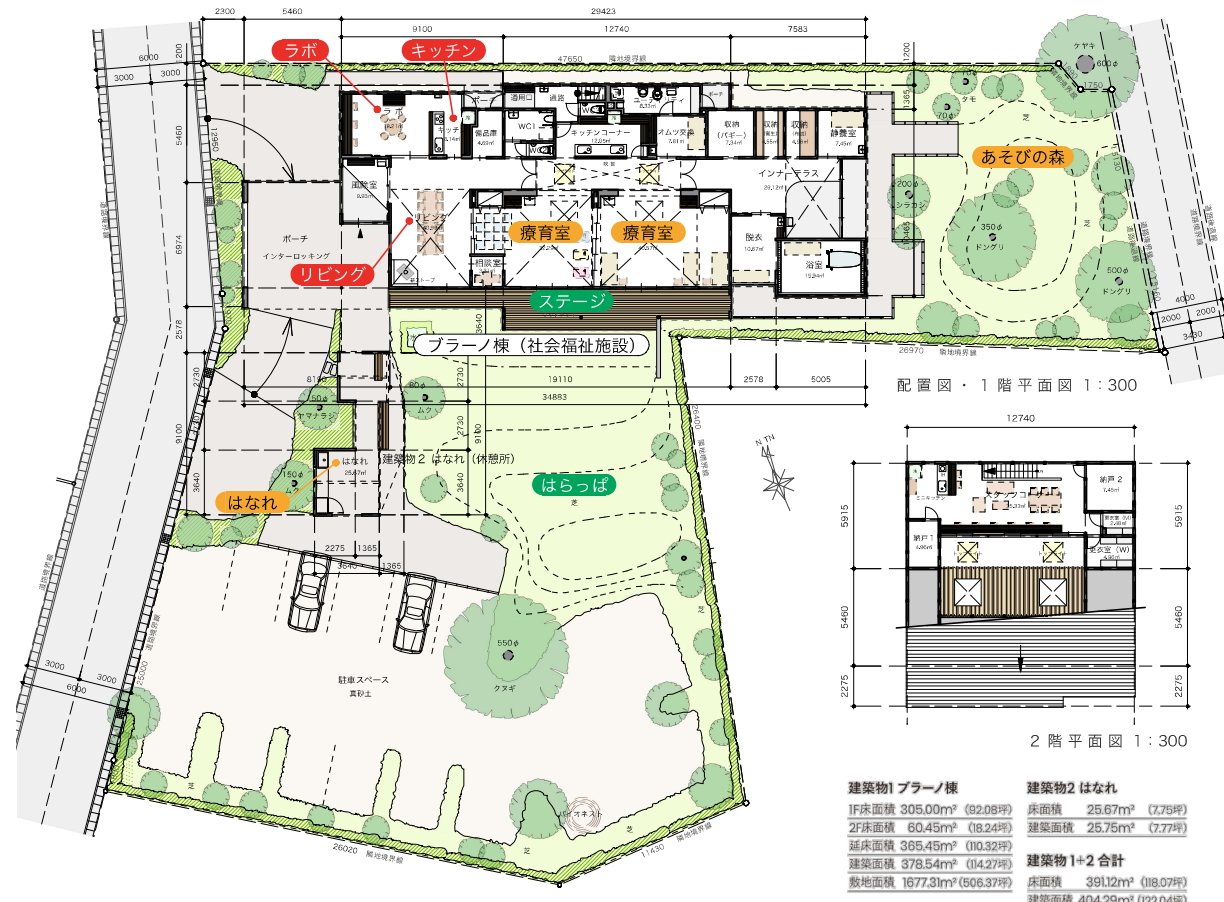


視点3 子どもたち家族が 頑張らなくても気ままに 地域と繋がれる場所

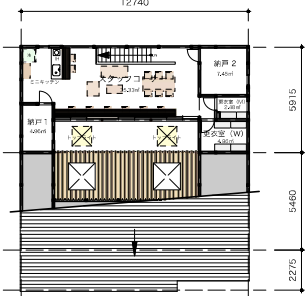
ステージ・はらっぱ

運動会やキャンプ。地域のお祭り「じゃがまいた」が舞う。色んな使い方ができるはらっぱで、子どもたち・家族・地域住民がそれぞれ“居心地のいい距離感”でお互い繋がる。

はなれ 送迎ついでにちょっとおしゃべり。散歩の途中で一休み。週末にはバナナおじさんの野菜市。ここから始まる“気軽に気楽”な地域の繋がりが。



配置図・1階平面図 1:300



2階平面図 1:300

建築物1 プラノ棟	建築物2 はなれ
1F床面積 305.00㎡ (92.08坪)	床面積 25.67㎡ (7.79坪)
2F床面積 60.45㎡ (18.24坪)	建築面積 25.75㎡ (7.77坪)
延床面積 365.45㎡ (110.32坪)	
建築面積 378.54㎡ (114.27坪)	建築物1+2 合計
敷地面積 1677.31㎡ (506.37坪)	床面積 391.12㎡ (118.07坪)
	建築面積 404.29㎡ (122.04坪)

木を活かし、 森を生かす。

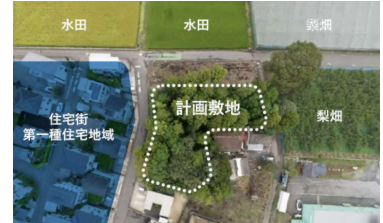
住宅と農村の境界に位置する敷地は、徒歩15分圏内に公園やスーパーマーケット、田園に梨園と様々な経験ができる場所があり、子供たちの「やりたい」を育むには最高。

屋敷林として使われていた森には多様な植物が生息。ランドスケープデザイナー・プランタゴの田瀬理夫さんがチームに参加。田瀬さん指導のもと樹木の選定、移植、保存を確認。

約25種類の木を確認。ヤツデ、キツタ、アケビ、ムクノキ、ケヤキ、ライラック、コナラ、シラカシ、ナンテン、アオキ、シュロ、スギ等。

保存する樹木は、一本一本マーキングし、樹形や位置を計測し敷地図にプロットしていく。選定した60種類以上の植物たちを工事の邪魔にならないように敷地の隅へ一時的に移植。

保存する樹木を傷めないよう切り出し、日光の製材所で製材加工を行う。子ども居場所となる療育室の壁に製材加工した敷地内樹木を施工。乱張りで個性豊かな表情を持つ内装に。



住宅と農村の境界に位置する敷地は、徒歩15分圏内に公園やスーパーマーケット、田園に梨園と様々な経験ができる場所があり、子供たちの「やりたい」を育むには最高のエリアです。

